

文章題テスト・説明／論説(1)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(1)～(4)は段落の番号です。)

① 近ごろは、真壁しんかべづくりの家が少なくなりました。木造建築アが少なくなったためです。しかし、木造家屋を「大壁」というつくりにすることが多くなったせいもあります。大壁というのは、板や合板やビニールクロスで家の骨組みほねぐみをおおい、柱を見えなくした壁のことです。大壁にすると、壁が家をささえている西洋の家にに似てきます。

② 大壁が主流になったのは、人々の好みと生活様式が、洋風になったためでしょう。しかしそれは、家のためには決して好ましいことではありません。日本は、高温多湿しつの季節がある国です。そういう国で、木材を、通気性のない外装そうと内装うちそうの間まにとじこめると、家をささえている大事な柱が、むれてヨワイくなってしまうからです。日本ニに真壁づくりが生まれたのには、それなりのわけがあるのです。

③ 木は、柱や板になってからも、生きて呼吸こきゅうしています。ですから、イキウがつけるように、せめて家の中ぐらいいは、柱をむき出しにしておいたほうがいい。一〇センチ角、長さメートルの柱一本は、ビールびん一本分の湿気を、吸すったり放出したりしています。柱をむき出しにしておけば、それだけの湿度を調節することができます。

④ 住まいを近代化すること、洋風にすることはちがいます。真壁づくりは、日本ニの風土ふうどに合った構造エです。木の美しさや、大工さんの技術オも生きてきます。壁は、合板や石こうに変えてもかまいません。しかし、柱を空気にふれさせる構造は、ぜひ復活ふっかつしてほしいものです。
(河津かわづ 千代ちよ「知っていますか 日本の自然と木の文化」より)

(注) 真壁——柱と柱の間をうずめる形でつくられる壁

1 線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア

イ

ウ

エ

オ



文章題テスト・説明／論説(2)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

大切なのは視線しせんです。どこを見るかということですが、特に、相手の目と視線を合わせ
ることをこれはアイコンタクトといます。

これも文化によって違ちがいます。タトえば、バングラデッシュでは、目上に対しては下を
むいたまま話をするそうです。日本でも、昔はどちらかというところだったようですし、
今でも、日本では、子供が親に怒おこられるとき、じっと親の目を見たりはしません。話を聞
いているという印いとして、相手の目を時々は見ますが、じっと見つめることは、むしろ、
反抗はんこうの気持ちを表すことになるのではないのでしょうか。

一方、イギリスの人から聞いたのですが、小さいころ、親からしかられるとき、よく、

「私の目を見なさい！」

と言われたといます。相手の目を見ないことは、相手の話をきちんと聞かないというこ
となのだそうです。

ただし、日本でも、相手と話をする場合には、きちんと思いを伝えるとき、時々相手
の目を見るのが普通のようにです。学生時代、面接試験めんせつしけんの時は、相手のネクタイのあたりを
見なさい、と教えられました。自分が面接員になった時の個人的印象では、ぼんやりと
目を合わせないままでは、 時々相手
の目を見てしっかりアイコンタクト
を取るほうが自信エをもって話をしてい
るような気がします。

前に自動車の販売はんをしている人から伺うかがった話ですが、商談をする場合には、複数ぶくの相手
がいれば、必ず、一人一人の目を見るように気をつけているそうです。相手の目を見ない
で話をする、まるでその人を無視むししているような印象を与あたえてしまい、その人が気分を
ワルオくする可能性かのうせいがあるからです。これは発表をする場合などでも同じなのではないで
しょうか。話を聞いてくれる一人一人を大切にするという思いを、アイコンタクトによって
表すことができるのです。これは大切なことです。

(森山 卓郎「コミュニケーションの日本語」より)



1 線ア～オについて、漢字は読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

ア

イ

ウ

エ

オ

2 線「じっと親の目を見たりはしません」とありますが、「じっと」はどのことばを修飾しゅうしやく（くわしく）していますか。ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア 親の イ 目を ウ 見たりは エ しません

3 に当てはまる最も適当なことばを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア まるで イ むしろ ウ とても エ かなり

4 線「文化によって違います」とありますが、相手と話をする場合の、文化による違いを、次のようにまとめました。①、②に当てはまることばを、①は文中から八字で書きぬき、②は十字以内で書きなさい。

①		目上に対しては下をむいたまま話をする。
イギリス		②
		話を聞く。

①

②

5 この文章で筆者が言いたかったことを次のように説明するとき、 に当てはまることばを、文中から七字で書きぬきなさい。

<input type="text"/>

によって、話を聞いてくれる人を大切にす、

という思いを表すことができる。



文章題テスト・説明／論説(3)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(①～⑤は段落の番号です。)

① 強い日光に耐えられるように「黒い眼」ができたことからわかるように、日本は太陽がいっぱいの国です。日ざしをさえぎる構造になっている日本家屋は、暑さに悩まされてきた私たちの先祖が、長い歴史の中で、考えに考えてつくり上げたものです。2 2
住まいの伝統を無視して、鉛色の空の国の住宅にあこがれるのは、まちがっています。どこの国の住宅も、それぞれの風土の中から生まれてきたものだからです。

② 箱型高層のオフィス・ビルは、日当たりという点では百点です。しかし、直射日光をもろにあびる部屋の夏の暑さは、二重ガラスにしても、カーテンをひいても、ブラインドをおろしても防げません。クーラーもききません。住宅でもそれは同じです。

③ 一般的にあって、鉄筋コンクリートの建物は、夏の直射日光をあびると、外壁の温度が四十五度以上になります。屋上は六〇度ちかく、その熱が伝わってくる室内の壁面は三〇度。コンクリートは熱をたくわえる性質をもっているため、クーラーをとめると、とたんに暑くなってきました。クーラーをつけっぱなしにしても、壁の内部まで温度を下げることはできません。

④ そして翌日。建物が冷えきらないうちに日がのぼり、真夏の太陽がまた一日中建物を熱しつづけます。そういうことがくり返される上、クーラーの排熱が加わるので、夏の都会は、熱のかたまりのようなヒート・アイランドになります。

⑤ なお悪いことに、クーラーは、暑さの悪循環をひきおこします。排熱のため、家の外では気温が上がります。そのために、クーラーなしではくらしえない家がふえてゆく。すると、ますます気温が上がリ、クーラーの数もふえつづける。その電気をつくるための石油などの燃料が燃やされ、地球温暖化が進行する、ということになるからです。

(河津 千代「知っていますか 日本の自然と木の文化」より)



1 線1「太陽がいつぱいの国」と反対の意味で用いられている言葉を、文中から六字で書きぬきなさい。

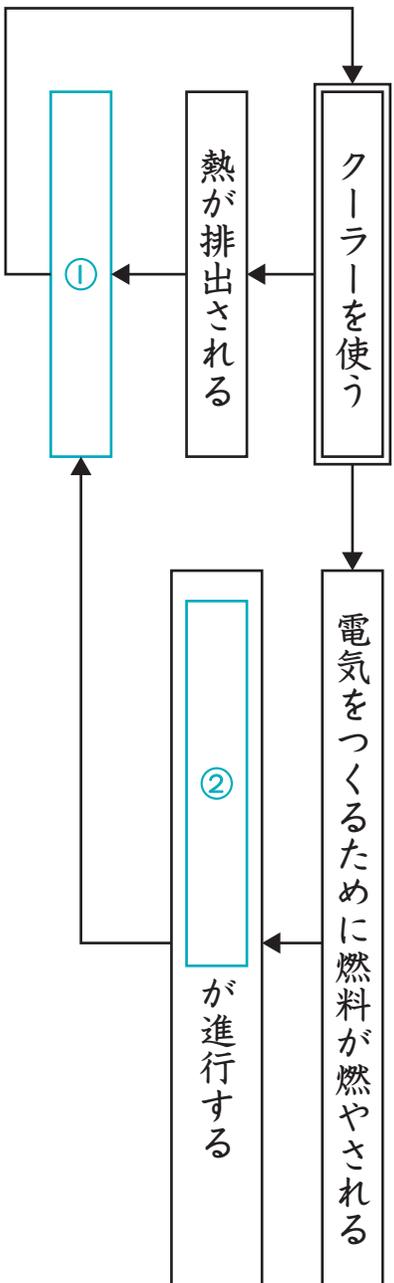
2 線2「そういう住まいの伝統」について次のように説明するとき、に当てはまる言葉を、文中から十字で書きぬきなさい。

日本人は、長年、夏の暑さをさけるために
の
家屋を住まいとしてきたということ。

3 2と4段落の要点を次のようにまとめるとき、に当てはまる言葉を、九字で書きぬきなさい。

夏の都会は、建物の熱やクーラーの排熱などで
になる。

4 線3「暑さの悪循環」を次のようにまとめるとき、、に当てはまる表現を、
①は十字以内で書き、②は文中から五字で書きぬきなさい。



①

②

5 この文章で筆者が最も述べたかったことがまとめられている段落の番号を書きなさい。

--

段落



文章題テスト・説明／論説(4)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

とても寒い朝、校門の前の道路がおおっていました。ちこくしそうだったひろしくんは、走ってきて、すってんころりん。これを見ていたしげるくんが、「超かっこわるい。」とはやしたてました。

例文の「超かっこわるい」は、ひろしくんをからかうために、しげるくんがわざとおもしろい言い方をしてみせたのでしよう。【ア】

最近の流行語として、「超きれい」「超こわい」「超おもしろい」などと、やたらに「超」をつけるのがはやっています。ものすごく、という意味で使っているようです。【イ】

給食のサラダにきれいなピーマンが入っていたときに、「超かなしい。」なんて、それほごたいしたことでもないのに、「超」ということばをつけていう人もいます。【ウ】

でも、本当は、「超」にこのような使い方はありません。【エ】

きまった言い方として、「超特急」「超高速」「超満員」「超音速」「超能力」「超党派」「超自然的」などがあります。

「超高速」は、とびきり速いということですね。「超音速」は、音速、音の速さを超える速さということですが、「超党派」は、それぞれの政党の範囲を超えて活動することです。

「超自然的」は、「超自然的な現象」などと使い、自然には起こらないようなという意味です。

また、一般に、とびきりという意味で、「超豪華」などと使うこともあります。流行語の「超きれい」「超おもしろい」などは、この使い方を応用したつもりなのでしょう。

でも、「超」ということばは、やたらに使うことばではないのです。「超かっこわるい」は、「すごくかっこわるい」もっていいねいに、「とてもかっこわるい」といえばいいのですから……。

(西本鶏介「まちがいだらけの言葉づかい」による)



文章題テスト・説明／論説(5)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

江戸えとのふつうの人びとは、今の人から見れば質素しっそで、不便びんべんなくらしをしていました。ところが、不便びんべんなために時間のゆとりが今よりあったのです。

たとえば大工だいこうさんは、朝は早くから働きはじめても、暗くくなる前に仕事を終わりにしました。電灯でんとうがないので、暗くになるとこまかい作業さぎょうができないばかりか、木のくずが散らばっているところで、ろうそくなどをつければ火事かじになるきけんがあるからです。明るいうちに家に帰った大工だいこうさんは、ゆっくりする時間がかなりあったのです。

また、江戸の面積の半分は田や畑で、農民のうみんがたくさんいましたが、農作物のうさくぶつを育てるには手間てまのかかる時期じきとかからない時期じきがあつて、手間てまのかからない農閑期のうかんきは時間のゆとりがありました。

、家賃やちんや教育費きょういくひが安やすかったため、ふだんはあまり長い時間働はたらいてたくさんかせる必要ひつやうがなかったのです。そのため、江戸ではいろいろな遊びあそびに熱中ねつちゆうする時間がたっぷりありました。さまざまな歌うたを習まなう、三味線さんみせんなどの楽器がくぎをひく、和歌わがや俳句はいくなどの詩うたを作る、仲間なかまうちで芝居しばいをする、絵えをかく、花はなや観葉植物くわんえつしょくぶつを育てる、遊山ゆうざんといつて景色けいしょくのいいところへ見物けんぶつに行くなど、おとなの趣味しゆみはたくさんありました。

子どもたちも、今のような宿題しゅくだいや受験勉強しゅけんべんきやうなどなかったので、手習てまいから帰ると、手てつだいをしながらも、日がくれるまで外そとで友だちと遊びあそびました。遊びあそびの種類しゆるいは、今の子どもよりはるかに多かったと思います。

(石川英輔「江戸のゆったりスローライフ」より)

(注) 江戸…昔の東京。ここでは、江戸時代(一六〇〇年ころからおよそ二六〇年間)の

東京のこと

質素…ぜいたくでないこと

手習い…江戸時代でいう学校のこと



1 線1「江戸のふつうの人びと」の例として、どのような職業（仕事）の人があげられていますか。二つ書きぬきなさい。

--	--

2 線2「不便なくらし」とありますが、文中で、不便なことの例としてどんなことがあげられていますか。八字までで説明しなさい。

--

3 線「時」と同じ部首の漢字で書き表すものを、ア～エから一つ選んで、記号に○をつけなさい。

- ア 病気がナオる イ 母の帰りをマツ ウ 卒業をイワう エ くもり空がハれる

4 線3「暗くなる前に仕事を終わりにしました」とありますが、この理由を次のようにまとめるとき、①、②に当てはまる言葉を、文中からそれぞれ十一字で書きぬきなさい。

・暗くなると、 ①から。	・ろうそくなどをつけると、 ②から。
-----------------	-----------------------

①	②

5 ①に当てはまる言葉として最もふさわしいものを、ア～エから選んで、記号に○をつけなさい。

- ア だから イ けれども ウ しかも エ ところが

6 江戸の人びとのくらしについて説明した次のア～エの文のうち、本文の内ように当てはまらないものを一つ選んで、記号に○をつけなさい。

- ア ぐらしは質素だが、時間にはゆとりがあった。
 イ 働く時間は短くても、たくさんかせぐことができた。
 ウ おとなにも、熱中できるさまざまな趣味があった。
 エ 子どもたちは、手つだいをしながらよく遊んだ。

